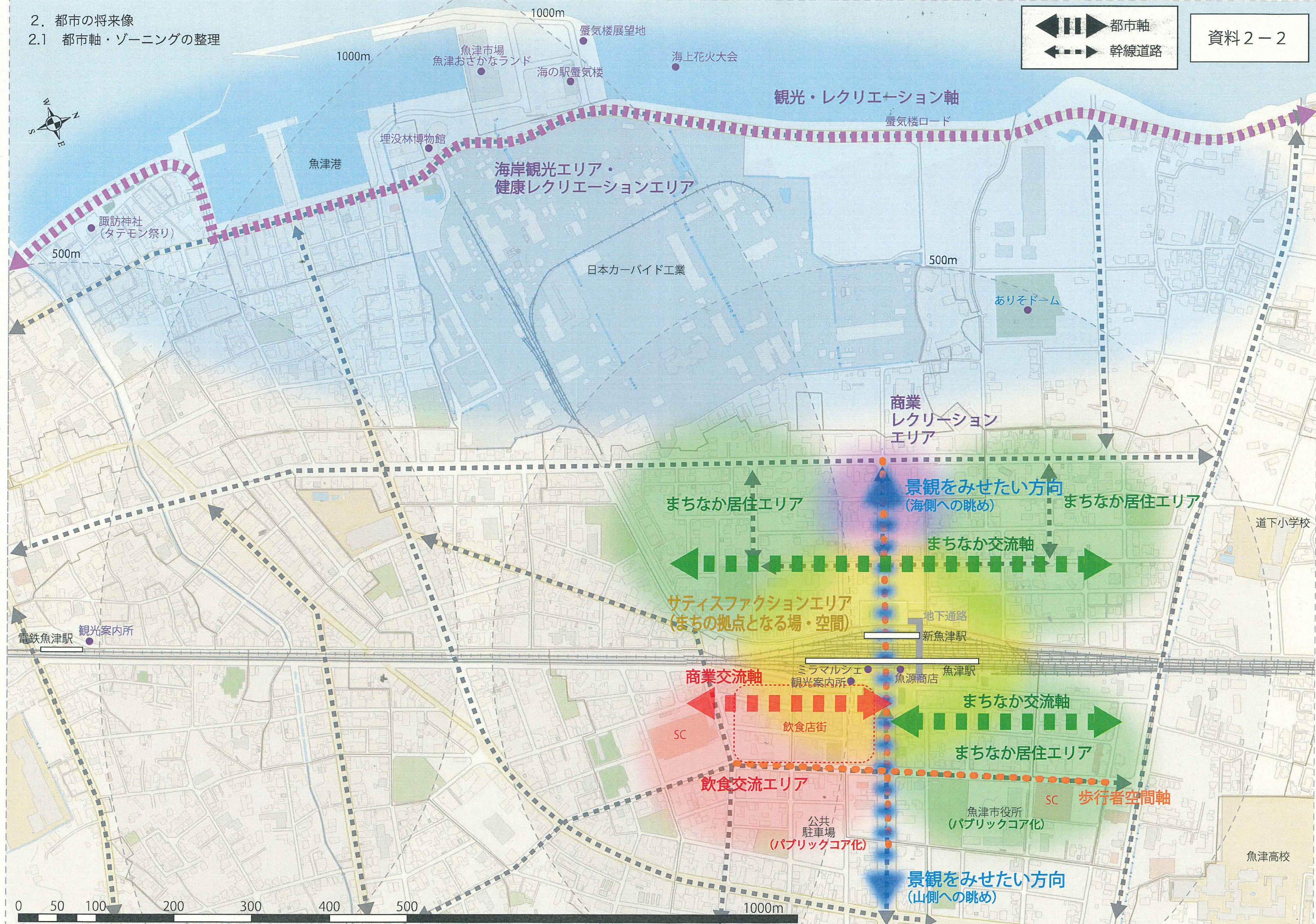


2. 都市の将来像

2.1 都市軸・ゾーニングの整理



2.2 都市軸・ゾーニングの説明

【都市軸の設定】

●景観軸（海へのビスタ・山へのビスタ）

駅空間は、まちの顔・玄関口であり、東口からは山へのビスタを望むことができる。さらに西口から海も近く、海へのビスタも創出できる可能性がある。これらの景観軸は、山から海へと続くコンパクトな魚津の地形（地域資源）が生み出す固有の都市軸として位置づけることができる。一方で、現状の駅空間はまちの東側と西側の分断要因になっているため、まちの連続性を確保するためには、この景観軸が重要な都市軸としての役割を担う。

●商業交流軸

飲食店街や観光案内所をはじめとする商業施設や機能をつなぎ、商業交流や賑わいの活性化を図る都市軸として位置づける。

この商業交流軸と景観軸が交わるエリアは、オープンテラスやオープンカフェなど、魚津特有の眺望を利活用した商業施設の展開も想定できる。

●観光レクリエーション軸

「埋没林博物館」「海の駅蜃気楼」「ありそドーム」「魚津市場おさかなランド」「蜃気楼ロード」といった主要な観光施設をはじめ、ユネスコ無形文化遺産・国重要無形民俗文化財・県有形民俗文化財に指定されている「タテモンまつり」あるいは「海上花火大会」などのイベント、「蜃気楼」といった観光資源は、海側に集積されている。これらの観光資源をネットワーク化した都市軸を観光レクリエーション軸として位置づける。

海へのビスタを創出する景観軸から観光レクリエーション軸へといざなうように連動させる。

●まちなか交流軸

主要な公共公益施設や生活拠点を結ぶ都市軸として位置づける。

景観軸の主導、駅空間の再整備及び東西空間の連続性を確保することで、西側エリアの居住誘導の促進にも繋げる。

●歩行者空間軸

地域のウォーキング、観光者・来訪者の観光やまちあるきなど、歩行者優先の道路空間に再編し、花が彩るオープンカフェや木陰のフリーマーケットなど、楽しく賑わいある広場のような歩行者空間軸として位置づける。

この歩行者空間軸は、周辺エリアにも足を延ばすきっかけを促す空間、まちづくりの骨格をなす都市軸としての役割も担う。

また、駅空間の再編により東西の連続性が確保できれば、連続性ある歩行者空間軸を形成することも可能である。景観軸と連動させながら地域の健康増進につながるような歩行者空間軸を形成させることも期待できる（駅空間から海までの圏域：500～1,000mの範囲）。



【ゾーニングの設定】

●サティスファクションエリア（まちの拠点となる場・空間）

駅周辺既存公共施設のリフレッシュにより、ポテンシャルを最大限に発揮させて利用環境を改善し、広域公共交通の連携充実も促進しながら、通勤通学利用者の満足度を向上させるエリアとして位置づける。

駅や両駅前広場を中心に交流と交通の結節機能を充実させ、魚津市の玄関口として、学生をはじめとした多くの市民や来訪者との多様な交流により、世代をつなげるまちづくりの拠点が創出されるエリアとしても期待できる。

—実現方法の提案—

【新魚津駅】駅西広場から新魚津駅に直接乗入れ可能なバリアフリー通路の設置

【地下道】両駅前広場を結ぶ地下道に音と光を用いた電光掲示等の整備

【駅前広場】利用し易く歩行者に優しい両駅前広場への再編整備

【設備・案内】ユニバーサルデザイン化された案内看板や券売機への更新整備

【駐輪場・トイレ】駐輪場やトイレ施設のリフレッシュ

【待合室】主に両鉄道利用者が使える待合空間の拡充

【駐車場】駅西広場や本エリア外周部の空地を利用した有料駐車場の整備

【駅舎】広い自由通路と一体となった橋上駅舎の整備

【駅舎】託児所や、親子サロン等の子育て支援施設と一体となった複合駅舎の整備

【駅舎】主に高齢者を対象とした健康増進窓口や、ふれあいサロン等の社会福祉施設が一体となった複合駅舎の整備

【駅舎】魚津の顔となる外観や機能を持つユニバーサルデザイン駅舎の整備

【複合施設】展望カフェや親子喫茶等、ゆったりとくつろげる施設が一体となった複合施設の整備

【複合施設】居住や宿泊機能のある複合施設の整備

【駅前広場】駅前広場の再編による歩行者自由空間の拡充整備

【先導策】ＩＣカードや総合的な交通運行・情報提供等、新しいシステムの導入



●まちなか居住エリア

各エリアに隣接し、まちなかでの生活に便利なエリアとして位置づける。

特に駅東側にある市役所前公園と市役所庁舎の周辺を「パブリックコア」として位置づけ、市役所庁舎の建替えに併せた公共施設の複合集約化を行い、行政サービスの一元化によるワンストップサービスの実現等、公共サービスの充実を図りながら、まちなか居住環境向上による居住誘導の促進に努める。

他方で、都市部のグリーン帯となる緑地公園として「パークコア」に位置づける事も可能であり、この場合は市民の憩いの場として、またイベント広場としても使い勝手が良く、来訪者からも親しまれる「まちなか緑地公園」が創出され、周辺の居住エリアは健康的で住み良い住環境形成を目指す方向性もある。この場合は周辺空地への市庁舎移転が必要となる。

●飲食交流エリア

市民はもとより交流人口の誘導も見据えながら、昼夜を問わない飲食店街、魅力的な商業・業務・宿泊施設等が連携・競争しながら活性化できるように必要な支援を充実させていくエリアとして位置づける。

例えば、「まちなか居住エリアのパークコア」実現に必要な市役所庁舎の移転先を本エリア内に設けた場合は、既存商業施設等とも連携した行政機能集約により多目的に多くの人が集まる場所が創出され、ソフトとハードの両面から活性化の支援促進が図られるエリアとして位置づける方向性もある。



●海岸観光エリア・健康レクリエーションエリア】

「ありそドーム」、「埋没林博物館」、「海の駅蜃気楼」等の施設があり、また「タテモン」、「海上花火大会」等の各種催し物も開かれるなど、魚津の多様な地域資源が集積するエリアとして位置づける。

これらの施設や催し物については、駅周辺から少し足を延ばせば届く身近なものとして、また、来場者が広域的に訪れる目的地の一つとして、案内看板の充実や沿道の緑化等により、利用・来場してもらいやすい環境作りに努める。

例えば、「サティスファクションエリア」からの明確な移動経路として、施設案内等が所々に設けられた自転車・歩行者用遊歩道を設ける等、利用してもらい易い環境整備や、県内外からの観光利用者が多い施設などの集積により、既存施設と連携した健康・観光産業拠点の創出を図ることも可能となる。



●商業レクリエーションエリア

駅周辺より海側（西側）において海岸観光エリア・健康レクリエーションエリアとまちなか居住エリアの中間領域に位置するエリアとして位置づける。

まちなか居住者をはじめとする地域住民や、観光者をはじめとする来訪者の賑わいを付与するような商業・レクリエーション施設の展開を目指し、駅空間をコアとした東西のまちの連続性確保、海岸観光エリア・健康レクリエーションエリアとまちなか居住エリアの活性化に伴い、魅力ある土地利用の展開が期待される。